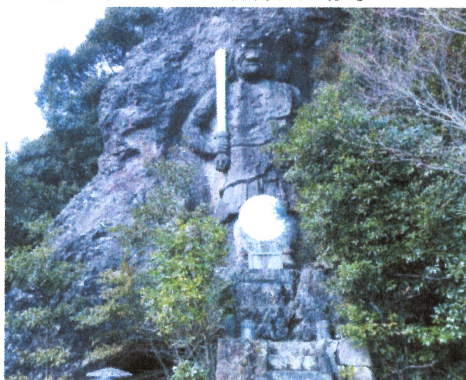




▼岩に彫られた太鼓岩不動尊



▲前黒髪山峰北側の岩陵からの展望



▲このルート内に立つ案内地図

黒髪山:遠足気分で楽しむ山岳信仰の山

山名 RQNo. 7 黒髪山(山頂が天童岩)
RQNo. 8 本城岳(通称:前黒髪峰)

ルート No.4-3 太鼓岩から黒髪山そして前黒髪峰へ

登山口 RQNo. 70 住吉城址
RQNo. 73 不動寺

最寄駅 佐世保線三間坂駅

黒髪神社までバス移動で、住吉城址登山口まで1kmの車道歩き、そこから1時間の山歩きが必要

駐車場 風早展望台駐車場

8台可能、公衆便所あり

(注) RQの意味

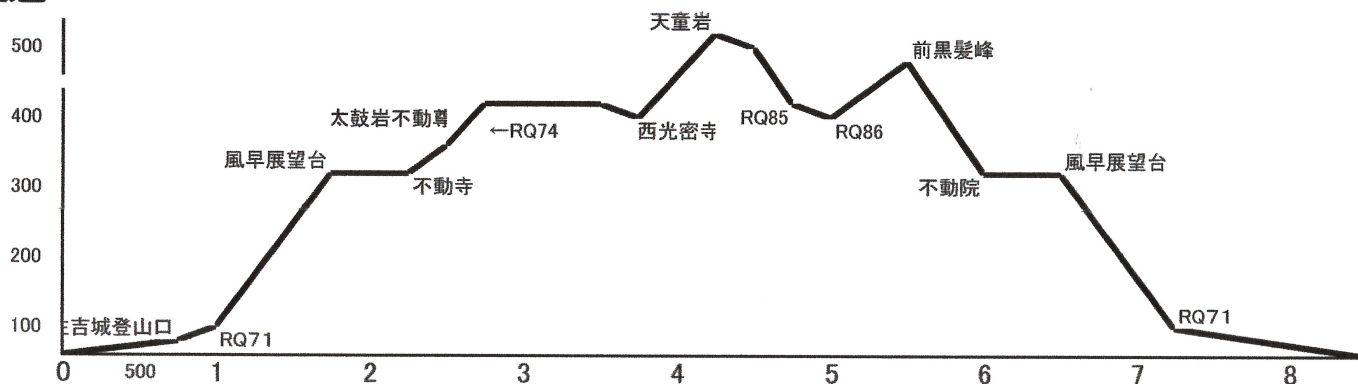
レスキューポイントの意味です。

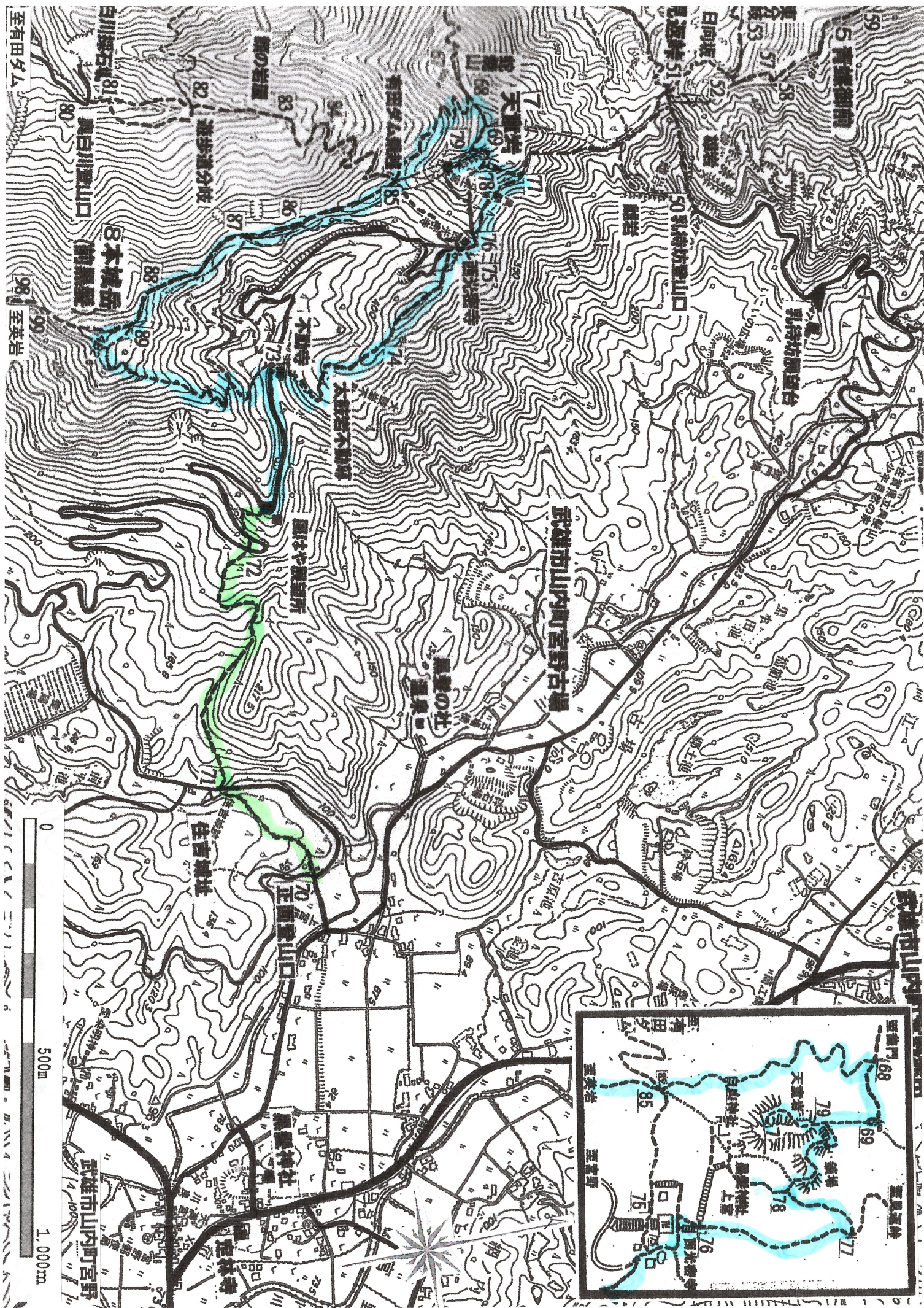
本来なら、RESCUEですから、短縮造語は「RC」とすべきですが、ここでは「RQ」として表記しています。

コースタイム

風早展望台	5分	不動寺 RQ73番	15分	太鼓岩不動尊	15分	西光密寺 RQ75	15分	天童岩直下の分岐
天童岩直下の分岐	5分	天童岩の尾根	3分	天童岩	10分	う回路分岐 RQ68番	30分	有田ダム乗越
有田ダム乗越	20分	遊歩道分岐 RQ87番	10分	前黒髪峰 RQ8番	25分	不動寺前 RQ73	5分	風早展望台
風早展望台	5分	車道出合①	1分	車道出合② RQ72	30分	車道出合① RQ71	10分	住吉城址駐車場
住吉城址駐車場	15分	黒髪神社バス停						

高低図





アプローチ



▲風早展望台脇の駐車場



▲不動寺脇の参拝道から登山開始

公共交通機関利用の場合

登山ルート黒髪山No.4-2を歩くか、タクシーを利用する。
料金はJR三間坂駅前から不動寺まで4,000円程度かかる。

マイカー利用の場合

住吉城址駐車場までは登山ルート黒髪山No.4-2を参照いただきたい。
車で風早展望台まで上がる場合は、一の鳥居前のT字路を右折する。
住吉城址を左に、正面登山道口(RQ71)を右に見送り、数件の民家を左に
車を走らせ、左手に養鶏場を見て走り、その先で、泉山へ抜ける林道を左に見送る。
風早展望台へは右に駆け上がり、樹林の中を高度を上げる。
途中に正面登山道を横断(RQ72)し、2度の急カーブを過ぎて森を抜ける。
左手の駐車場に車を置く。尾根の先が風早展望台である。
この駐車場が満杯の時は、さらに車道を400m走ると不動寺があり、
その100m先の大曲に車を置くことができる。この車道の終点が西光密寺である。
今は西光密寺まで車で上がることができる。大曲から1km先である。

登山ルート



▲不動寺裏の参拝道を太鼓岩不動尊へ



▲西光密寺への道は「不動尾根」と呼ぶ



▲不動尾根から前黒髪峰を望む

住吉城址登山口から不動寺まで

登山ルート「黒髪山No.4-2」を参照されたい。

不動寺から天童岩へ

西光密寺へ向かう車道沿いにある風早展望台からは、登山道は車道を併用する。
右手の山腹に太鼓岩不動尊が見えてくると、やがて不動寺に着く。
道路脇の車庫は、かつて茶屋跡であり、菓子やラムネが販売されていた所だった。
不動寺で参拝した後、本堂左脇からコンクリートで固められた道を登る。
沿道には石仏が並んでいる。急斜傾斜で、眼下に本堂を見ながら登り、
登り着いた所にデッキがあり東側の山内町を一望できる。
振り返った岩壁に、刀剣をもった不動尊が掘られている。
かあつ、と見開いた両眼が、なんとなくユーモラスである。
不動尊に向かい左側の、岩壁につけられた石段を、鎖づたいに登ると、
すぐに岩殿に安置されて石仏のある修験場に着く。「お籠り堂」とある。
西光密寺へは、樹木の根を潜るように遊歩道を登っていく。
不動尊の岩壁の頭に登り着き、天童岩の支尾根を進む。左手には
天童岩から続く前黒髪峰が見えている。
尾根道の遊歩道が途中で無くなった所がRQ74番である。
この先は、自然の岩稜歩きとなり、振り返ると天童岩の後で登る前黒髪峰が高い。
下りかかると再び整備された遊歩道となる。
その歩道が階段となり下れば、西光密寺(RQ75)に着く。

西光密寺から天童岩へ

西光密寺の本堂の裏手の広場へ進むが、本堂右手の洗い場脇からと、
左手の東屋先の階段のどちらからも行くことができる。
広場奥の階段を登ると、台地状の小広場に出る。ここが分岐点(RQ76)で、
西(左)へ登る長い石段道が天童岩への一般的なルートで近道だが
この登山道は、別ルート(黒髪山No.2)を参照されたい。
ここでは見返峠に向かう植林帯の中の平坦道を進み、



▲ナイフリッジの向こうが天童岩



▲鎖場への下山路を右に見送り、比較的
安全な「う回路道」へ回る



▲RQ68番の分岐で、西光密寺方面へ下る



▲遊歩道分岐(RQ86)手前の岩稜／有田
ダムを展望できる



▲前黒髪峰直前の岩尾根を登る／背後
に黒髪山、その後ろは右:青螺山と左:牧
山

小さな登りを詰めれば分岐(RQ 77番)に着く。

北(まっすぐ)へ進むと見返峠への下り道で、南西(左)の登山道を天童岩へ向かう。
小天童と呼ばれる斜面についた道で、木の根に注意して上る。

平坦になり、天童岩分岐に着く。

RQ78番で、この分岐から西(右折)に登れば天童岩東岩壁に出る。

コンクリート貼りの道を進むと、いよいよ鎖場の登攀となる。

近年は足場や梯子も整備され、登りやすくなったが、
緊張感をもって3点確保で登りたい。

上り優先だが、緊張のあまりそんな登山ルールも忘れ、降りてくる登山者も増えた。
譲り合って、安全に通過したい。登りきると尾根(RQ79)に出る。

北(右)は龍門への下山路で、この鎖場の迂回路でもある。そのルートは後で
使うことにして、まずは天童岩へ南(左)へ進む。

岩の間を抜け、ナイフリッジを通過して、岩を西(右)へまわり込む。

ナイフリッジの左右は切れ落ちているので、強風の日には要注意だ。

天童岩の最後の鎖を登りきると、標高こそ518mの低山ではあるが、
さえぎるものの無い360度のパノラマが待っている。

山頂部南端の岩場に、有田焼陶岩が設置され、肥前の名山を確認することができる。

天童岩から前黒髪峰へ

展望を楽しんだら、尾根／鎖場上の肩(RQ79)まで戻り、

鎖場への下山路を右に見送り、樹林の尾根道を北進(まっすぐ)する。

踏み跡に従い西(左)に折れ、道標(RQ69)に従い後黒髪尾根に移る。

樹林の尾根はすぐに、鎖場迂回路の分岐(RQ68)に降り立つ。

西(まっすぐ)へ進めば、蛇焼山を越えて後ノ平経由で龍門への道である。

分岐を南(左)へ下りる。ザイルに導かれて、蛇焼山の南斜面を下る。

2つ目のターンの所に、立派な杉の樹がある。

これから天童岩の西岩壁の付け根を、踏み跡に従い下る。

少し登りとなり、平坦路を進めば有田ダム乗越の分岐点(RQ85)に着く。

変形4差路で、西(右)に下れば30分で有田ダム、東(左)へは3分で

西光密寺である。前黒髪峰へは南(まっすぐ)へ、植林地の尾根を進む。

尾根は一旦下り、岩陵に出て進めば旧西光密寺駐車場から

上がってきた遊歩道に出る。RQ86番の分岐である。

この遊歩道は尾根と並行して作られているが、すぐに分岐(RQ87)があり、

東(左)への遊歩道は、不動院先の車道大曲へ向かって下っている。

南(まっすぐ)の遊歩道を登る。振り返ると天童岩が厳しい姿で見守っている。

遊歩道の終点から登山道に入り、灌木林を登ると岩陵に出る。

RQ88番の岩稜上部からは、

横綱の黒髪山天童岩が、青螺、牧山を従えて土俵入り姿で見送っている。

この後のルートでの展望は望めないなので、この岩稜で一服しておきたい。

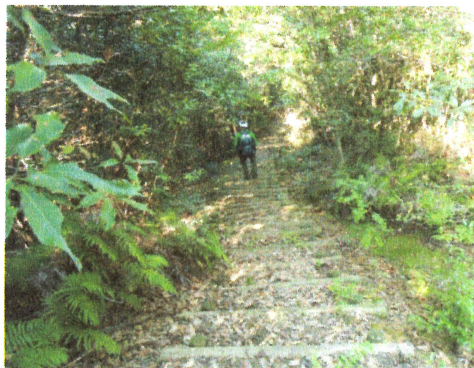
岩陵の上には階段状の遊歩道が再び現れる。

RQ89番の分岐で前黒髪峰へは、遊歩道から右に分かれた尾根道のすぐ。

樹林の中で展望はない。

なお、このピークは山内町では本城岳と呼ぶ。

17世紀初めまでの住吉城時代の詰め城か狼煙台のあった名残である。



▲前黒髪峰から不動寺への下り

前黒髪峰から不動寺へ

不動寺までは、この遊歩道分岐(RQ89)から下る。

しばらくは展望もないが、やがて尾根に出て、左手に天童岩と蛇焼山、正面に太鼓岩不動尊、眼下に不動寺が見える。

遊歩道をさらに下ると、左からもう1本の遊歩道が上がってきて合流する。

この遊歩道は車道の太曲から上がってきた道で、

不動寺へは鋭角に南東(右)へ進み、下っていく。

下り着いた不動寺前の林道を右(南)へ400mで風早展望台と駐車場。

左(北)へ100mで車道の太曲だ。

みどころ



西光密寺

開祖は空海で、9世紀初めに渡唐の前後に黒髪山に登頂し、

祈願成就に薬師如来・阿弥陀如来・千手観世音を奉祈。

その3仏を弟子の快護に祭らせたという縁起話が残っています。

快護ははじめ、上段に神祠を建立しました。現在、寺堂上の広場西側です。

この地に仏殿・護摩堂・坊舎・厨庫を構えて「西光寺」と号し、

真言密教の修験場としました。

寺院は明治13年に炎上し、白川谷の長尾観音を経て、

明治39年に佐世保鎮守府近く(現戸尾町／黒髪山大智院)に移転したとあります。

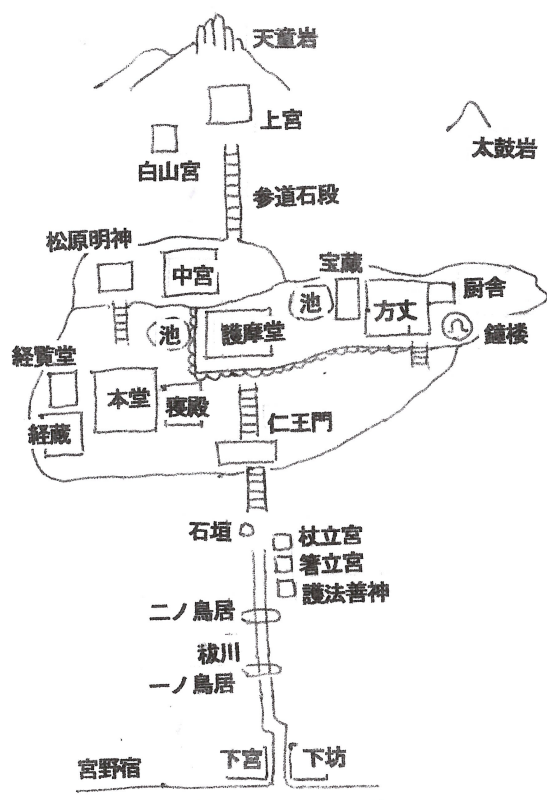
現存の本堂は「奥の院」として明治41年に建立されました。

麓の真言宗大覚寺派定林寺の支配で、本尊は開基と同じ3仏です。

古来伝の八十八夜の護摩焚き法要には多くの信者を集め、

そのころに有田で始まった陶器市に流れた、という逸話も残っています。

「江戸時代までの黒髪社」配置略図(山内町史より)



現在の配置略図



▲今に受け継がれる護摩焚き法要



ミヤマトベラ

マメ科

黒髪山系の植物：108ページ

植生	暗い林内に生える
樹高	20cm程度の常緑小低木
葉	3出複葉、小葉は卵形の全緑で厚い。葉裏には短毛が密生する。
花	長さ1cmの白色の蝶形花。開花期：7月
果実	晩秋に楕円形で大粒の瑠璃色の果実をつける。
和名の由来	
希少度	全国的にも自生地は多くない。



ボロボロノキ

ボロボロノキ科

黒髪山系の植物：107ページ

植生	林縁に生える
樹高	高さ3～8m程度の落葉小高木
葉	葉は長卵形で、先が尾状に尖り、全緑。 落葉後には細枝も落ち、その脇から芽を出す
果実	夏に赤から黒熟する身を付ける
樹皮	成木では縦に割れる
和名の由来	枝が脆く、折れやすいことから
希少度	南九州に多く、北部九州では少ない。



タキユリ

ユリ科

黒髪山系の植物：33ページ

樹高	高さ50～100cmの多年草
花	花弁に鹿の子のような斑点があり、濃淡がある。開花期：8月
カノコユリとの違い	薄暗い岩場に垂れるように生える。 茎はほとんど分枝せず、直立しない葉は茎に対して平面的に付く。 花は下向きに付く。花弁が深く切れ込み、細く、大きく反り返り、縁が波立つ
和名の由来	
カノコユリの変種とされるが、本種の分類には異論もあり、今後の研究が待たれる。	

ノビタキ

フィールドガイド「日本の野鳥」：242ページ

大きさ	L: 13cm
習性	夏鳥として主に本州中部の高原や北海道の低地に渡来し、渡りの時に本州以南の低地の畑や河原の草地にいる。
特徴	雄の夏羽は東部から喉・後頸・背・翼・尾羽が黒く、肩に白斑あり。秋には雌に似て、下面が一様に橙黄色の個体をよく見かけ
啼き声	地鳴き：ヒツ、ヒツ、ジャツ、ジャツと鳴く さえずり：ヒーヒー・ヒーローなど澄んだ声で



写真／日本野鳥の会佐賀県支部／加藤芳隆

キジ

フィールドガイド「日本の野鳥」：196ページ

大きさ	L: 80cm(雄)、60cm(雌)
習性	本州～屋久島で留鳥。各地で放鳥され、外来亜種となっている。 繁殖期には、雄は土塊や倒木などに留まって鳴き、羽ばたく。
特徴	雄の尾は長い。頭部・首・胸・腹が光沢のある黒緑色で、顔は赤い。
啼き声	繁殖期に雄はケッケツと鳴いて羽ばたく。飛び立つ時や飛翔中にケッケツとけたたましく鳴くこともある。